

01

はじめに

02

各Groupで描いた2050年の社会像

03

2050年カーボニュートラル実現に向けた
今後10年程度で取り組むべきアイデアカタログ

04

2050年を生きる世代から
2024年を生きる世代へのメッセージ

05

参画機関／各回の議論

06

おわりに

APPENDIX

各分科会で実施したワークショップの内容と
ワークシート

アイデアカタログで提示された、2050年の社会状況やアイデアの概要（一部抜粋）

2050年の社会状況

- 野外の農地で栽培できる作物種は激減し、工場生産が中心となっている。
- 脱炭素に繋がるライフスタイルへの転換により、新しい暮らしを支える製品・サービスへの大規模な需要が生じている。
- 夏場の最高気温の平均が45℃になるなどかなり温暖化が進行している。そのため日本の中心は東京から北海道に移った。
- 高温のため地下街などの地下空間が多く整備され、自然に近い風や空に見える天井など、居住性も高められているがあくまで人工的なものであることから、精神疾患を患う者が過去よりも増えた。

アイデア

※ 以下はアイデアの柱立ての例。これらの柱それぞれについて、具体的なアイデアを提起した。

- 日本の食の豊かさを維持する施策を推し進める
- 産業構造変化に対応するため労働者の公正な移行を促進する
- 温暖化などに適応した地域のレジリエンスを強化する
- 気候変動による悪影響を抑え、心と体のウェルビーイングを実現する